

## □ アナリスト週間相場予想

	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

### Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 11/24 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高  
USDAクロープ・プロGRESS
- 27 米国休場
- 28 USDA週間輸出成約高

## □ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



コーンの日足にボリンジャーバンドを付してみると-2シグマを下方方向にノック中、このまま週明け火曜日も安いようであれば下降バンドウォーク突入は充分予見できる。本日(11/21)前引け時点で18480円のストップ安、現時点で11/13日安値18660円をネックラインとするWTトップをギリギリ完成、下値リスクを臭わせる特徴満載のチャートとなっている。14本RSIは現在38.98と売られすぎとは呼べないレベルで数値を切り下げる余地は充分、RSI自体も下方方向を向いており下降トレンドを示唆している。

一方大豆だがこちらも11/13安値をネックラインとしたWTトップを完成し、14本RSIもコーンと同じく売り方針示唆、ただしボリンジャーバンドだけは2 $\Sigma$ と-2 $\Sigma$ が平行に推移しておりまだバンドウォークの兆候はないのでセオリー的にはボリンジャーだけが逆バリを示している。ボリンジャーの形が違う点だけでコーンよりは弱さ加減がましという意味合いでアイコンは少し弱気に留めてあるが、エナジーの下降が止まらない限りは穀物セクターは前回の週報から方向転換、売り方針で臨みたい(11/21 前引け現在)

## □ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

穀物相場は原油価格や株価といった外部環境から切り離された動きを見せつつあったが、NY原油の50ドル割れに影響されて、またしても急落に喘いでいる。原油もそうだが、世界景気の後退を背景とした需要低下観測が上値を抑えており、まだ底練りの段階を脱するのは難しいようだ。むしろ、このまま外部環境の悪化が続いた場合には、穀物相場もまた底割れのリスクが高まることになる。

コーンの場合、収穫終盤でのイールド低下観測が出ており、次回の需給報告で1ブッシェル程度の方修正はあり得るとの見方がある。ただ一方では、エタノール業界の不振が伝えられており、こちらがマイナス要因として押し掛かりそうだ。米国の場合、ガソリンへのエタノール混合が義務付けられており、相場に関係なく使用量は拡大基調を辿るとの説明がよくなされるが、ベースとなるガソリン販売量が落ち込んでいなければ説得力もなくなるというものだ。

また、大豆に関しては、中国の買い付け動向(国家備蓄用)が支援材料として浮上はしているが、コーンが下値リスクを強める場面では買いも入りにくい。商品市場そのものが個別材料では動きにくい環境が続いており、代表格の原油次第の展開が予想される。金融市場が落ち着けば独自性を発揮するとの期待感はあるものの、三連休明けの市場に委ねられることになりそうだ。方向感は見出しづらいが、コーンと大豆を比較すれば、大豆のほうがファンダメンタルズ的には優位であることには変わりがない。取引倍率を揃えた上で、なおかつ価格水準が揃うように大豆買い(1):コーン売り(2)の比率で見なければ、急落局面でも対処は可能だろう。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。